

施餓鬼会

五如来を「本尊として、飢え渴きに苦しむ精霊（餓鬼）を供養し、仏の世界に導く法会。自他兼濟、功德广大、先祖供養。

五如来

南無 宝勝如来 除慳貪業 福智円満（慳貪の業を除きて、福智円満ならん）

南無 妙色身如来 破醜陋形 円満相好（醜陋の形を破り、相好を円満にせん）

南無 甘露王如来 灌法身心 令受快樂（法を身心に灌ぎ、快樂を受けしめん）

南無 広博身如来 咽喉广大 飲食受用（咽喉は広大し、飲食受用せん）

南無 離怖畏如来 恐怖悉除 離餓鬼趣（恐怖悉く除き、餓鬼趣より離れん）

変食陀羅尼

のうまく さらばー たたぎゃたー ばろうきてい おん
さんばら さんばら うん



宝勝如来ほうしょう

餓鬼には富と充足を、私には少欲知足の心を

妙色身如来みょうしきしん

餓鬼には美しい身体と衣服を、私には仏道を歩める健康を

甘露王如来かんろおう

餓鬼には美味なる飲食を、私には甘露の法味を

広博身如来こうはくしん

餓鬼には広く大きな喉を、私には広く物ごとを受け入れる心を

離怖畏如来りふい

餓鬼には苦の世界から離れる勇気を、私には怖れのない開かれた心を

施しを妨げる心の問題

「自分は無力である」

- ・これは社会の問題だ。自分一人が施しをしても、何も解決しない。
- ・偽善的になりたくない。自分はそのように表に立つ人間ではない。

「自業自得である」

- ・困っている人自身にも原因がある。まず自力で窮地から抜け出すべきだ。
- ・助けの手を差し伸べることは、本人のためにも良くない。

(実は、自分も餓鬼として生きていた時に施しによって救われた)

布施行は、慳貪の心、自己中心の心を除き、少欲知足の心を養う仏教の基本

徳目である

三施Ⅱ財施・法施・無畏施